

和名：ジャガイモやせいもウイルス

学名：*Potato spindle tuber viroid* (略称：PSTVd)

英名：spindle tuber of potato, bunchy top of tomato

分布

インド、中華人民共和国、アフガニスタン、イスラエル、イラン、トルコ、イタリア、ウクライナ、英国、オーストリア、オランダ、ギリシャ、クロアチア、スロベニア、チェコ、ドイツ、フランス、ベラルーシ、ベルギー、ポーランド、マルタ、ロシア、エジプト、ガーナ、ナイジェリア、アメリカ合衆国、コスタリカ、チリ、ドミニカ共和国、ベネズエラ、ペルー、オーストラリア、ニュージーランド

宿主植物

(種子) トウガラシ、トマト、バレイショ、ペチュニア属

(生植物) アボカド、シマホオズキ、ステレプトソレン・ジェイムソニー、ソラム・ラントネッティ、タマサンゴ、ツルハナナス、トウガラシ、トマト、バレイショ、ペピーノ、カリブラコア属、ケストルム属、ダリア属、ブルグマンシア属、ペチュニア属

病原体

ポスピウイルス属のウイルス。葉と葉の接触や汚染された農機具との接触等によって容易に汁液伝染し、特にトマトでは、管理・剪定作業の進行方向に沿って感染株が確認されることが多い。また、トマトでは種子伝染、ばれいしょでは種子伝染及び花粉伝染することも知られている。このほか、極低率でチューリップヒゲナガアブラムシによって非永続的に伝搬されたことや *Potato leafroll virus* と重複感染している場合にモモアカアブラムシによって伝搬されたとの報告もある。

病徴及び被害

ばれいしょでは、地上部で茎葉の矮化（図①）、葉の上偏生長、縮葉等の症状が現れるほか、塊茎で萎縮、細長化、芽数の増大等の症状が現れ（図②）、収量が減少する。トマトでは、頂葉の葉巻、茎葉の黄化、縮葉、葉脈・茎部のえそ、株の萎縮等の症状が現れ、収量が減少する。ただし、これらの症状は栽培品種や環境条件によって変化する。また、宿主植物の中には無病徴で感染するものも多く報告されており、日本で感染が確認されたダリアにおいても、現在病徴は不明である。



図 ばれいしょの病徴

- ①：地上部における茎葉の矮化
 左：PSTVd 感染ばれいしょ(男爵薯)
 右：健全ばれいしょ(男爵薯)
- ②：塊茎の細長化及び芽数の増大
 左：PSTVd 感染ばれいしょ(男爵薯)
 右：健全ばれいしょ(男爵薯)